

Copyrighted materials of the authors

日本語のノダに類する文末談話標識の通言語的研究：
「思考プロセス」の観点からのアプローチ
(平成27年度第2回研究会)

日時： 平成27年12月5日(土曜日)(午前9時より午後7時まで)
6日(日曜日)(午前9時より午後3時半まで)

場所： AA研 302号室

報告者名： 角田三枝(AA研共同研究員 立正大学非常勤講師)

2015年度 第2回 研究会報告

参加者(7名)： 梅谷博之(6日のみ)、海老原志穂、児倉徳和(5日のみ)、
千田俊太郎、角田太作、星泉、角田三枝

<研究会の内容>

12月5日(土)

- ①海老原志穂(AA研共同研究員、AA研研究機関研究員)
アムド・チベット語の調査結果見直し3と発表準備
- ②児倉徳和(AA研所員)
シベ語と「思考プロセス」
- ③角田三枝(AA研共同研究員、立正大学)
「思考プロセス」と本プロジェクトによる発見・発表準備
- ④星泉(AA研所員)
カム・チベット語と「思考プロセス」
- ⑤ディスカッション 今後の成果発表について(全員)
- ⑥千田俊太郎(AA研共同研究員、京都大学)
朝鮮語と「思考プロセス」

12月6日（日）

⑦梅谷博之（AA 研共同研究員、AA 研特任研究員）
モンゴル語と「思考プロセス」

⑧角田太作（AA 研共同研究員、国立国語研究所名誉教授）
一般言語学における本プロジェクトの成果の位置づけ

⑨ワークショップの準備（全員）

<今回の研究会の成果>

今回は、1月に予定しているワークショップに向けて、準備を行った。

アムド・チベット語（海老原志穂）、シベ語（児倉徳和）、カム・チベット（星泉）、朝鮮語（千田俊太郎）、モンゴル語（梅谷博之）について、1月のワークショップを見据えて、本プロジェクトで発見したことの中からテーマを決めて発表した。

また、角田三枝が、プロジェクト全体の成果および、新しく発見したことを報告した。今回調査したすべての言語について、(i)ノダ相当の形態の出現が「思考プロセス」にかかわり、しかも言語ごとに特徴があること、また、(ii)ノダ相当の形態が出現する通言語的な条件があり、言語類型論的に重要な発見があることを示した。

1月に予定しているワークショップの内容、および今後の成果発表の方法等について、メンバー間で話し合った。